

図 20-1 困窮度別に見た、就寝時間（小5・中2のいる世帯）

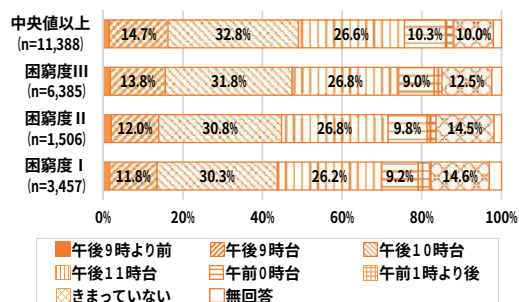


図 20-2 困窮度別に見た、就寝時間（5歳児のいる世帯）

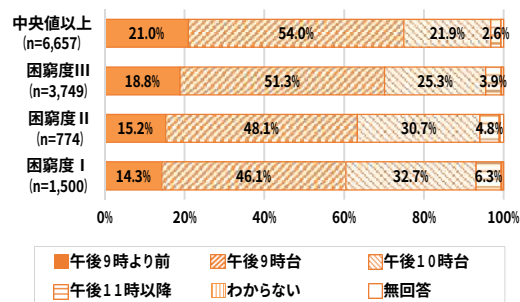
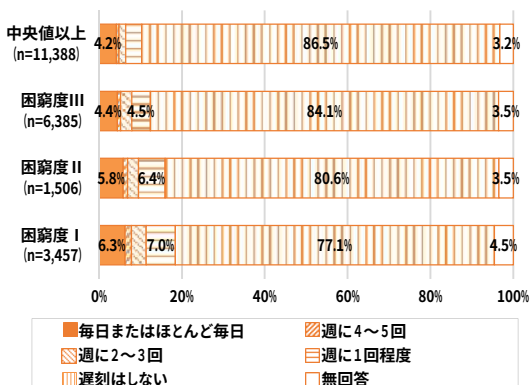


図 21 困窮度別に見た、遅刻の状況（小5・中2のいる世帯）



イ 就寝状況別に見た朝食の頻度

小学校5年生・中学校2年生のいる世帯においては、就寝時間が遅くなるほど、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる割合が低くなっており、5歳児のいる世帯においては、就寝時間が遅くなるほど、「必ず食べる」割合が低くなっています(図 22-1、図 22-2)。

図 22-1 就寝時間別に見た、朝食の頻度（小5・中2のいる世帯）

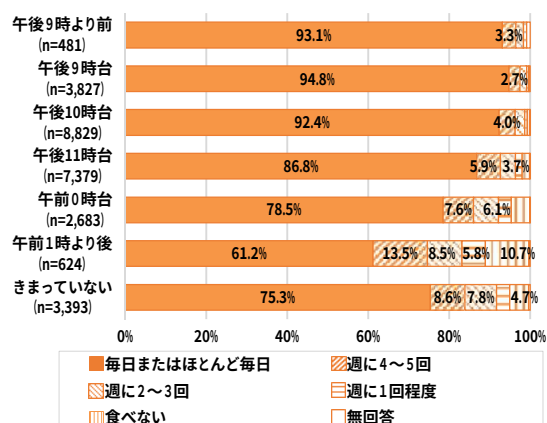
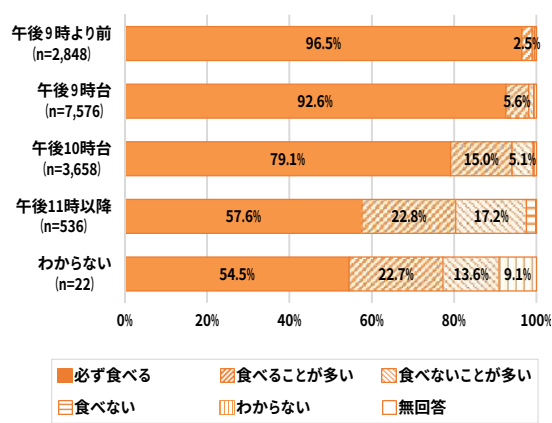


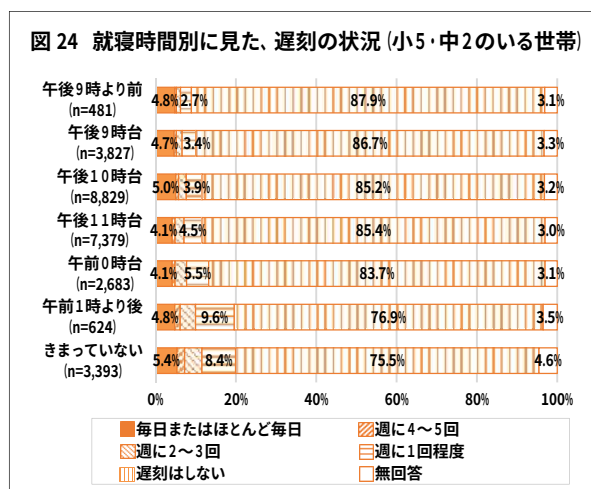
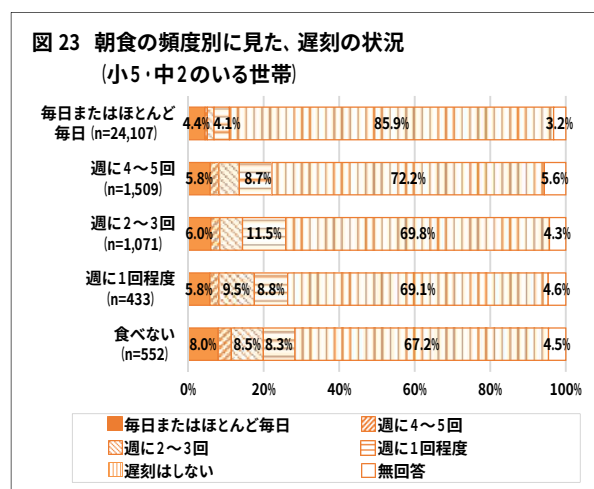
図 22-2 就寝時間別に見た、朝食の頻度（5歳児のいる世帯）



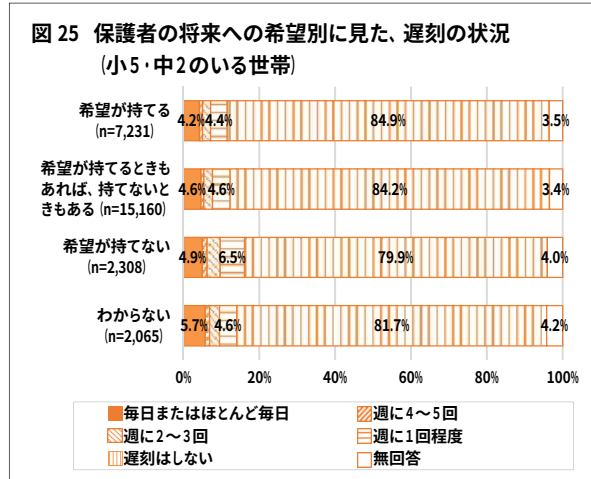
ウ 朝食の頻度別、就寝時間別に見た遅刻の状況

困窮度が高くなるにつれ、朝食や睡眠に関する望ましい生活習慣が定着していない割合が高くなっていますが、朝食の頻度別、就寝時間別に遅刻の状況を見ると、望ましい生活習慣が定着していないほうが、「遅刻はしない」と回答する割合が低くなっており、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食

べる場合、「遅刻はしない」と回答する割合は 85.9%であるのに対し、朝食を「食べない」場合は 67.2%となっています(図 23)。また、就寝時間が「午後9時台」の場合、「遅刻はしない」と回答する割合は 86.7%であるのに対し、「午前1時より後」の場合は 76.9%となっています(図 24)。

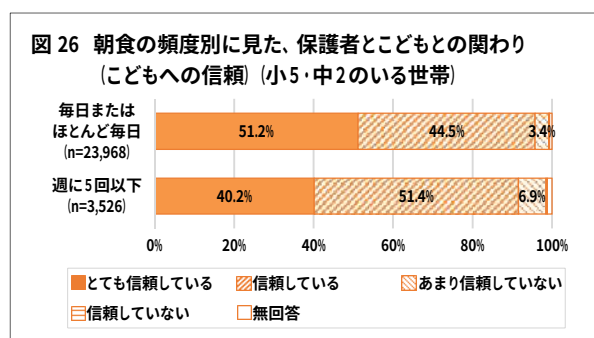


エ 保護者の将来への希望別に見た遅刻の状況
「希望が持てる」場合は「遅刻はしない」と回答する割合は 84.9%であるのに対し、「希望が持てない」場合は 79.9%となっています(図 25)。



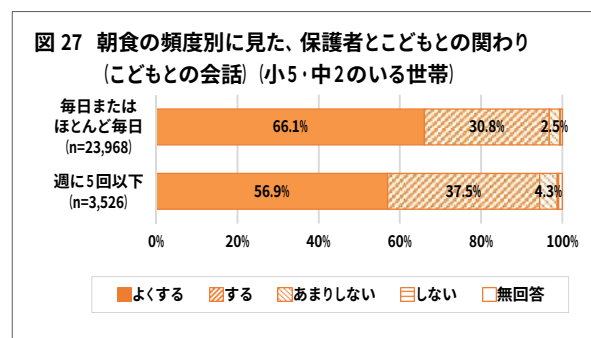
オ 朝食の頻度別に見た保護者と子どもとの関わり
(ア) こどもへの信頼

「毎日またはほとんど毎日」群の方が、子どもを「とても信頼している」と回答する割合が高くなっています(図 26)。



(イ) こどもとの会話

「毎日またはほとんど毎日」群の方が、こどもと会話を「よくする」と回答する割合が高くなっています(図 27)。



カ 5歳児におけるしつけの状況

(ア) 困窮度別

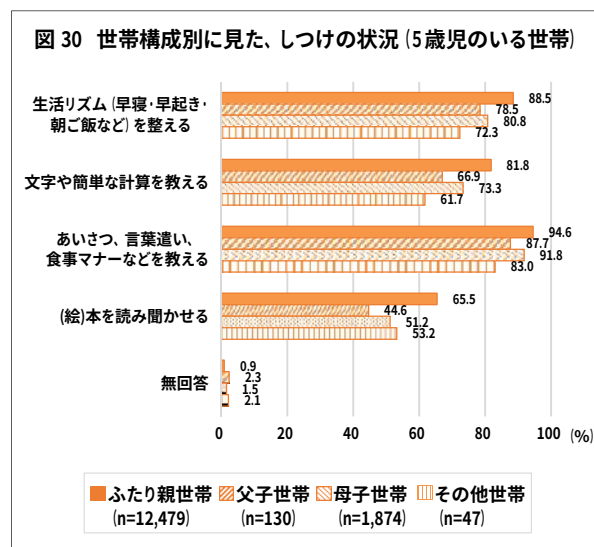
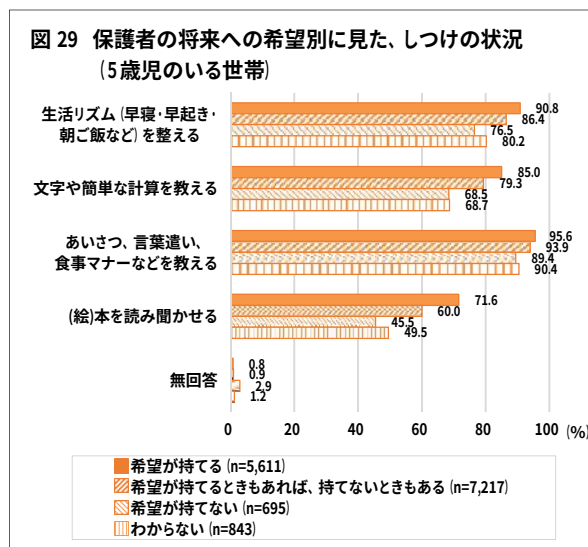
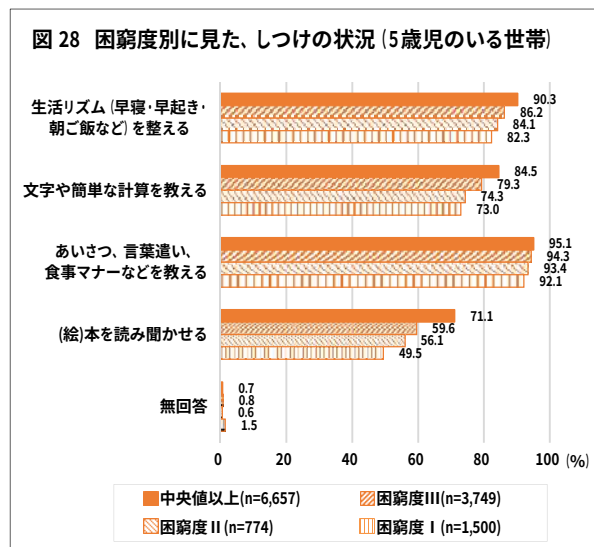
困窮度が高くなるにつれて、しつけをしている割合が低くなっています(図 28)。

(イ) 保護者の将来への希望別

希望が持てないほど、しつけをしている割合が低くなっています (図 29)。

(ウ) 世帯構成別

ふたり親世帯、母子世帯、父子世帯の順にしつけをしている割合が低くなっています (図 30)。



キ 心身の自覚症状

(ア) 困窮度別

中央値以上群と困窮度 I 群との間で差の倍率が高い項目に着目して見ると、小学校 5 年生・中学校 2 年生の保護者については、「ねむれない (2.3 倍)」「よくかぜをひく (1.9 倍)」「聞こえにくい (1.9 倍)」の順に大きく (図 31-1)、5 歳児の保護者については、「ものを見づらい (2.2 倍)」「ねむれない (2.2 倍)」「歯が痛い (2.0 倍)」の順に大きくなっています (図 31-2)。

こどもについては、保護者の場合ほどには、中央値以上群と困窮度 I 群との間で差の倍率が高い項目はありませんが、「特に気になるところはな」について、中央値以上群が 25.9%であるのに対し、困窮度 I 群が 20.3%となっています。また、「イライラする」「やる気が起きない」については困窮度にかかわらず、およそ 4 人に 1 人が該当する状況になっています (図 31-3)。

(イ) 世帯における経済的な理由による経験の該当数別

該当なし群と 7 個以上に該当群との間で差の倍率が高い項目に着目して見ると、小学校 5 年生・中学校 2 年生の保護者については、「聞こえにくい (3.8 倍)」「歯がいたい (3.8 倍)」「不安な気持ちになる (3.7 倍)」の順に大きく (図 32-1)、5 歳児の保護者については、「歯がいたい (4.4 倍)」「聞こえにくい (4.4 倍)」「ねむれない (3.5 倍)」の順に大きくなっています (図 32-2)。

こどもについては、「聞こえにくい(1.6 倍)」「よくかぜをひく(1.5 倍)」「歯が痛い(1.5 倍)」の順に大きくなっています(図 32-3)。

(ウ) 世帯構成別

ふたり親世帯と母子世帯又は父子世帯のいずれかとの間で差の倍率が大きい項目に着目して見ると、小学校5年生・中学校2年生の保護者については、「ねむれない(2.1 倍)」「よくかぜをひく(1.6 倍)」「不安な気持ちになる(1.6 倍)」の順に大きく(図 33-1)、5歳児の保護者については、「ねむれない(2.2 倍)」「ものを見づらい(1.8 倍)」「よくおなかがいたくなる(1.8 倍)」の順に大きくなっています(図 33-2)。

こどもについては、「聞こえにくい(1.4 倍)」「よくかぜをひく(1.3 倍)」「歯が痛い(1.3 倍)」の順に大きくなっています(図 33-3)。

(エ) 初めて親となった年齢別

小学校5年生・中学校2年生の保護者、5歳児の保護者ともに「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「不安な気持ちになる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」といった項目において、10 代群は他の群に比べて顕著に割合が高くなっています(図 34-1、図 34-2)。

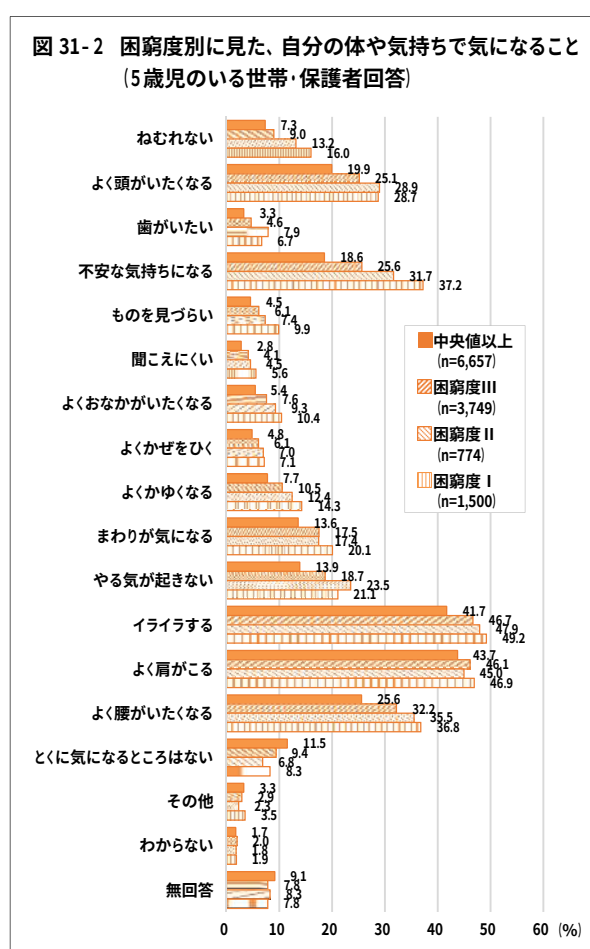
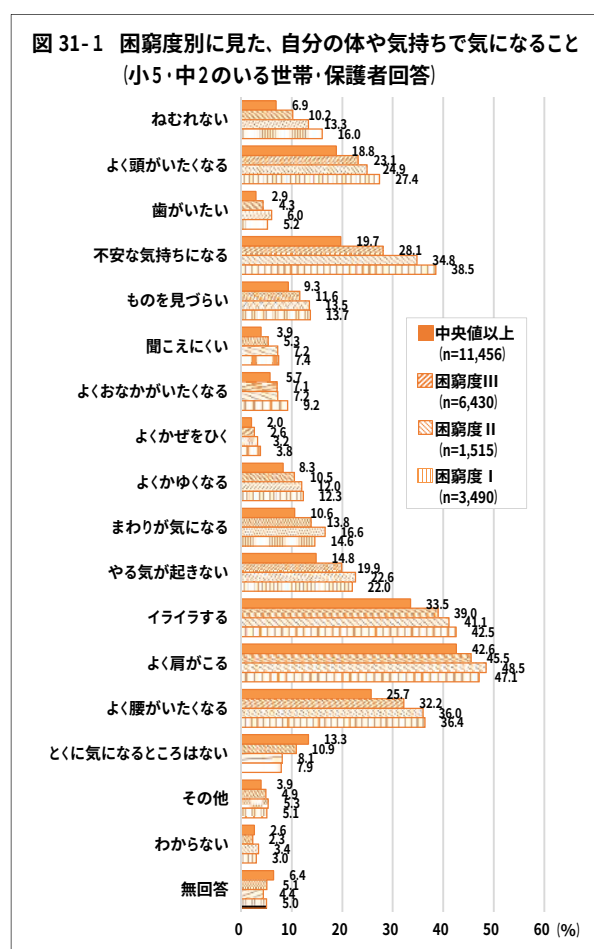


図 31-3 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること (小5・中2のいる世帯・こども回答)

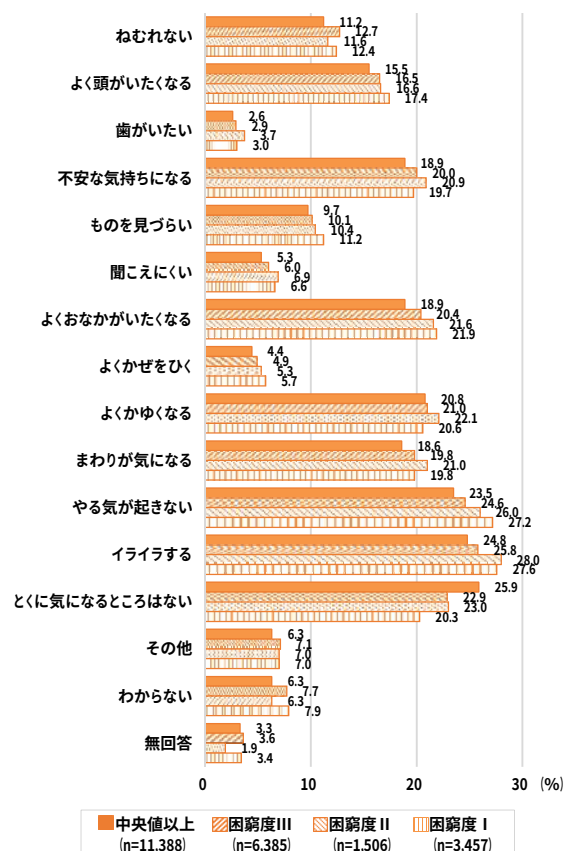


図 32-1 世帯における経済的な理由による経験 (図4-1参照) 該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること (小5・中2のいる世帯・保護者回答)

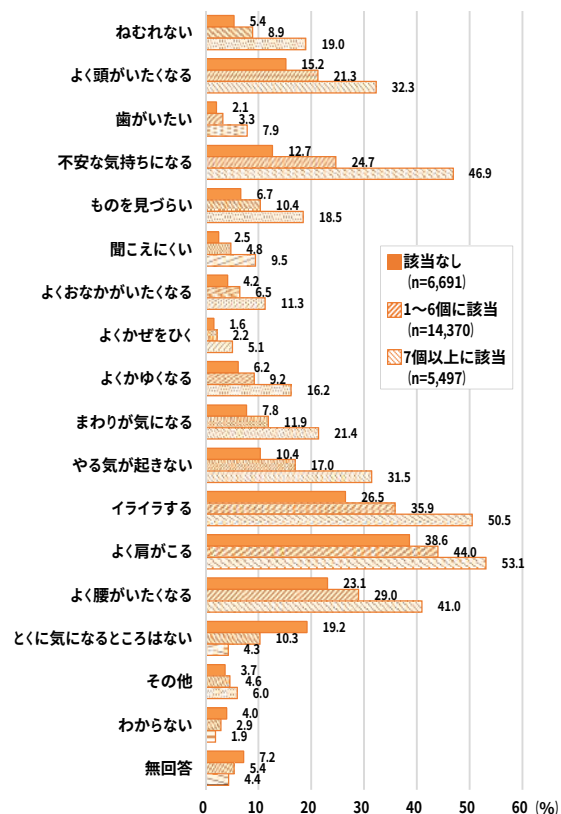


図 32-2 世帯における経済的な理由による経験 (図4-1参照) 該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること (5歳児のいる世帯・保護者回答)

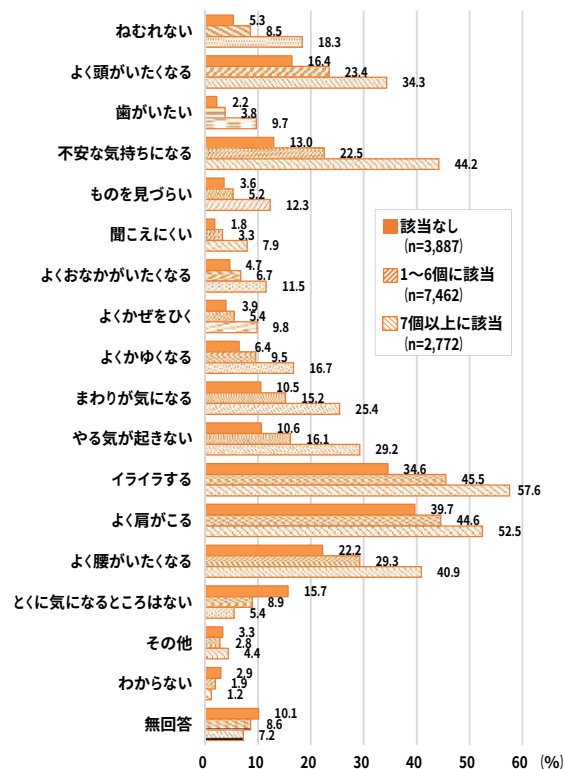


図 32-3 世帯における経済的な理由による経験 (図4-1参照) 該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること (小5・中2のいる世帯・こども回答)

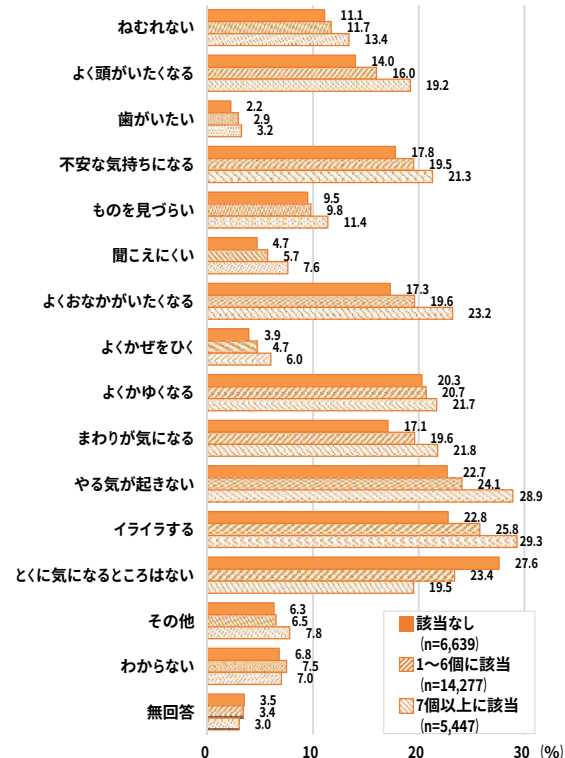


図 33-1 世帯構成別に見た、自分の体や気持ちで気になること(小5・中2のいる世帯・保護者回答)

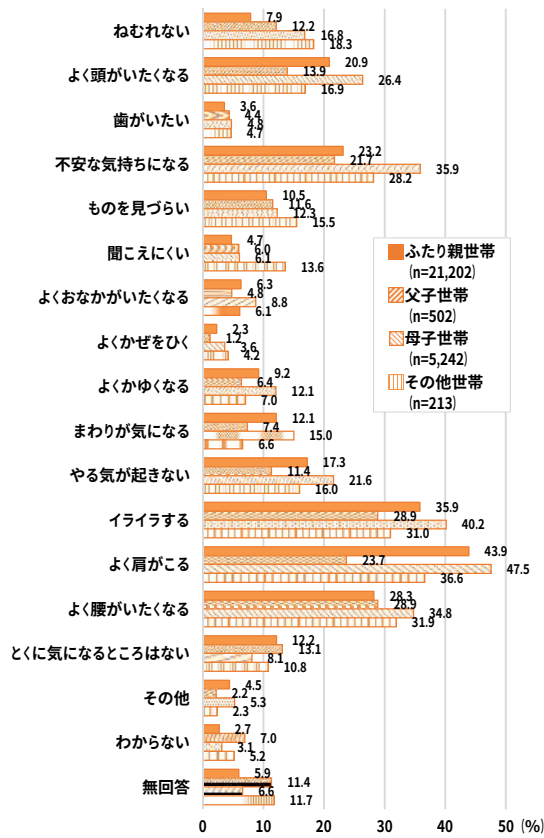


図 33-2 世帯構成別に見た、自分の体や気持ちで気になること(5歳児のいる世帯・保護者回答)

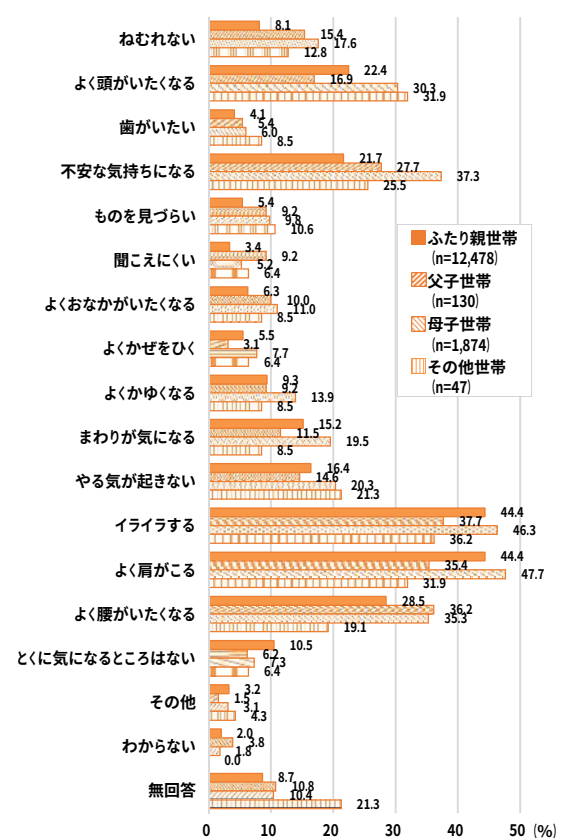


図 33-3 世帯構成別に見た、自分の体や気持ちで気になること(小5・中2のいる世帯・こども回答)

